

Ⅱ 特別連載 Ⅱ

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第489回

静岡大学の活動報告



脇谷 尚樹
(静岡大学
電子工学研究所教授)

さくらサイエンスから

新たな日印科学技術交流へ

2025年9月15日～10月5日の21日間、科学技術振興機構(JST)「さくらサイエンスプログラム」の支援により、インドのスリ・ラマサミー・メモリアル科学技術大学(SRMIST)から8名(教員1名、ポスドク2名および博士課程学生5名)のメンバーを静岡大学に招へいしました。サイエンスプログラムにてSRMISTの学生や教員を静岡大学に招へいする事業はこれまで7回行われております(2015、16、18、19、23、24、25年度)。これらのさくらサイエンスプログラムで静岡大学を訪れた学生の中にはその後、静岡大学の博士課程に入学した方も複数います。さらに、さくらサイエンスプログラムを通して培ってきたネットワークや人的交流を基盤として、静岡大学とSRMISTは大学間協定の締結、博士ダブルデグリー協定の締結、相互の大学の客員教員への



EPMA分析



講演会における質疑応答



弁天島で浜松の自然と親しむ招へい者

就任、および2025年度のInSPIREカーボンニュートラル推進人材育成プログラム(InSPIRECN)の採択等に発展してきました。

2025年のさくらサイエンスプログラムは「新材料創成を目指した萌芽研究の探索」というテーマで、研究計画の作成から試料作製と分析(EPMA、XRD、FEISEM、ラマン散乱など)をメインに実施しました。合間にはさまざまな研究室——中村研(ナノカーボンの合成)、近藤研(圧電センサー)、原研(CVD法によるセラミックス薄膜の合成)、モラル研(ナノデバイスの作製方法とデバイス特性の計測)、池田研(カーボンフアブリックを用いた熱電材料)、脇谷研(セラミックス薄膜の作製技術と分析方法)——を見学し、それぞれの研究内容について理解を深めました。

期間中に実施されたさくらサイエンスに関する講演会では、坂元准教授、東京科学大学の久保田助教、名古屋工業大学の高井教授からの講演に耳を傾け、熱心に質問をする姿が印象的でした。また、スズキ歴史館、方広寺竜ヶ岩洞、浜松まつり会館、弁天島を訪れる機会も設け、浜松のものづくりとその歴史的・文化的背景を肌で感じてもらえたことと思います。

■ プログラム終了後の交流

2025年のさくらサイエンスプログラムが終了して一行が帰国した後も交流は続いています。今年3月19日～24日に「AFMDI2026」という国際会議がSRMISTに

プログラムスケジュール	
1日目	来日
2日目	オリエンテーション・キャンパスツアー
3日目	高柳記念未来技術創造館見学 浜松キャンパス共同利用機器センター訪問
4日目 ~5日目	テーマ別実験研究計画作成～研究 ディスカッション
6日目	ラボツアーおよび研究紹介
7日目	テーマ別実験研究・ディスカッション
8日目	機器分析(XRD・FE-SEM)
9日目	テーマ別実験研究・ディスカッション
10日目	国際交流担当教員との面会
11日目 ~12日目	機器分析(EPMA・ラマン散乱) ラボツアーおよび研究紹介
13日目	スズキ歴史館訪問 竜ヶ岩洞、大本山方広寺訪問
14日目	日本人の教授・学生との交流
15日目	工学専攻長らを訪問
16日目	機器分析(ラマン散乱・FE-SEM)
17日目	研究成果発表会準備
18日目	講演会・意見交換会
19日目	研究成果発表会・報告書作成
20日目	中田島砂丘、浜松まつり会館、弁天島訪問
21日目	離日



さくらサイエンスプログラム終了後、インドのSRMISTを訪問

これまでの静岡大学とSRMISTとの学生の交流は主にSRMISTの博士課程の学生が静岡大学の博士課程に入学する形で行われてきたのに対して、静岡大学の学生がSRMISTを訪れるケースは限定的でした。これに対して、上記のINSPIRECNやSSSVは主に修士課程学生と、修士課程に進学予定の学部4年生を対象としていることから、今後は静岡大学の学生がSRMISTを訪問する機会が大幅に増えると期待されます。実際、多くの日本人学生がINSPIRECNに興味を持っており、インドに行ってみたいと言っていました。

さらに、今年10月15日～17日には静岡大学において「mini AFMD」という国際会議の開催が予定されています。この国際会議はSRMISTを中心とするインド人研究者や他の国の多数の研究者が静岡大学に集まる予定です。3月にインドでAFMDを開催した7カ月後に静岡大学で「mini AFMD」が開催されることになったのは、3月にインドに行くことが時間的に難しかった日本の研究者にとってもSRMISTをはじめとするインドの大学の教員と交流する機会が持てることから、これまでの交流をさらに深化させるのもちろんのこと、新たな交流に発展すると期待されているためです。

て開催されました。この国際会議は約120名の海外からの招待講演者と約1000名が参加する大規模なものでしたが、この国際会議の議長は2025年のさくらサイエンスプログラムを引率したナバニザン教授で、さくらサイエンスプログラムで静岡大学を訪問した他のメンバーがボランテアとして受付や会場の運営にかかるさまざまな場面で活躍していました。

AFMD12026には静岡大学からは、さくらサイエンスで懇談した福田工学部長、青木電子工学研究所長、近藤創造科学技術大学院長をはじめとして、川田理事や約20名の教員が参加し、講演を行いました。このように静岡大学とSRMISTの人的な交流は、

さくらサイエンスを通じてさらに強固なものとなりました。

また、2025年11月には静岡大学工学部のショートステイ・ショートビジット(SSSV)プログラムにて池田教授と修士課程の3名の学生がSRMISTを訪問し、さらに交流を深めました。

■今後の展望